

ネパール旅日記 2016年(平成28年)7月29日～8月2日

立命館慶祥中高等学校 講師 菊 正敏

ネパールの位置



ネパール概念図



国旗

古代ヒンドゥーの神々によって使われた三角形を模したもの。月は平和を、太陽は平和を、赤は国の色、青は空と海を表す

ネパール概要

ネパール連邦民主共和国(Federal Democratic Republic of Nepal) 時差 日本より3時間15分遅れ

地理 人口 2844万人 面積 14.7万km² 首都 カトマンズ(標高:1330m 人口 100万人) 民族 インド・ヨーロッパ語族が人口の半数、チベット系ビルマ語系など30以上の民族が暮らす。 **気候** 平均19℃・降水量1476mm(カトマンズ):山岳地域はH気候、南部低地帯はCw気候 **一人あたりの国民所得** 730ドル(2013) **宗教** ヒンドゥー教80%、仏教10% **インターネット利用** 15% **日本との貿易** 日本から36億ドル ネパールから16億ドル(繊維・衣類・バックなど)

歴史 4世紀～カトマンズ盆地には王朝が栄え、ヒンドゥー教や仏教が土着信仰と共存。今日の旧王宮や寺院などは13～15世紀のマッラ時代後期のもの。1814年～**グルカ戦争(ネパール戦争 1816年)**で英国と戦争し、**敗北**。領土割譲を余儀なくされたが、併合されることなく**独立を守る**。1951年～**王政復古**。1955年**国連加盟**。1979年**反政府運動活発化**。1990年、**新憲法・主権在民・多民族国家**へ。2001年**王宮事件**で国王一家殺害される。**2008年王制廃止**。**2011年『ネパール観光年』実施**

ネパールへ

2015年4月に大地震のあったネパール。震災後のネパールの復旧も気になるが、どんな国なんだろう、と好奇心もわく。最近は観光旅行も復活し始め、そんな団体ツアーを発見。個人旅行では時間もかかりそうなので申し込む。4泊5日じゃやや短いが今回は時間節約ツアー。北海道からは我々夫婦を含め8人参加。8:55新千歳離陸。大韓航空利用のため韓国仁川空港で集合。全国から31名集合。ネパールへはバンコク経由やムンバイ(ボンベイ)などの経路もある。大韓航空は仁川からカトマンズへ飛んでいる。

13:25仁川離陸、空路、カトマンズへ向かう。そうそうビザは必要だよ！直接大使館に行けば15日間観光ビザは3000円。しかし札幌ではムリ。高いが業者に頼んだ。

16:50、カトマンズ・トリブヴァン国際空港到着。気温20℃、曇り模様。ネパールは7月・8月は南西のモンスーンを受け雨季真っ最中！ゆえに旅行代金も安い？ただネット情報によると、この国際空港、2015年世界ワースト危険空港3位らしい。おいおいそんなことガイドブックには書いて無かったよ！まあそうだよね。過去1992年には大事故が二件。なんと当時レーダー施設がなかったという！！もともと地形的にも山岳部の盆地。えっホント？それで日本がJACAをつうじて設置。さらに2014年、NECが日本政府の政府開発援助無償資金協力で最新鋭の航空管制用レーダーシステム設置することになった。しかしまだまだ空港設備の不十分で、空港バスも古く、ボーディングブリッジもない。到着後はみんなタラップを降り、古いバスでイミグレーションに向かう。30～40年前の日本の地方空港。それもあってか日本からの乗り入れはいまだ無し。ターンテーブルからの荷物もいつ出てくるかわからない。何しろ複数のフライトからの荷物が混在。二つしかないのだから30分～1時間は覚悟が必要。全員の荷物が勢揃いするまで1時間余り。やれやれ。次はディナーだ。空港から市内へ。あれどこかで見た風景！町の看板も歩く人もインド？えっ、ここはインド？インドでしょう！

いや『リトルブッダ*』ではないが、ネパールはまさに「リトルインド」だ。



質素な国際空港



いきなりの渋滞！



インド仕様ネパール看板

高校生は知らないと思うが、映画『リトルブッダ』のブッダの幼少時代のシーンは近くのバクタプルで撮影された。(仏陀を描いた壮大な一大叙事詩。音楽は坂本龍一)

ネパール大地震:2015年4月25日にネパールで発生した地震のこと。カトマンズでは地割れが発生するなどして多くの建物が倒壊した。カトマンズのダルバール広場、スワヤンブナート、ダラハラ塔、マナカマナなど歴史的な建造物や世界遺産の寺院などの多くが修復不可能な損傷を受けた。4月28日に国連は、死者8460人、負傷者14393人、全体でネパールの人口の約30%にあたる約800万人が被災した。(被災直後の様子 ネットより複写)



約30%にあたる約800万人が被災した。(被災直後の様子 ネットより複写)

ネパール料理…牛はダメでも水牛はOK!

ホテルに着く前に食事。ディナーはチベット料理「ギャコック鍋」。チベットの貴族たちが祝いの時に食べた宮廷料理のこと。「ギャコック」とは「食べ物の王様」という意味で、寄せ鍋の一種。チキン、山羊、マトンそして水牛に豚肉ミートボール、エビ、カッテージチーズ、野菜など盛り沢山だ!



ギャゴック

そして地元のビールだ! ネパールといえば「エベレスト」。地元ビールといえば「エベレスト」。これが結構いける、旨い! 疲れた旅人の喉を潤す。「ギャゴック」の味はといえば…山の料理

なのでどちらかというと地味な味。私は空腹もあり結構食べたが、意外と食べ残しも見られた。ちょっと残念…。しかし肉は何と水牛でした! 初体験。ガイドさんに聞くと、ヒンドゥーでは牛は御法度、でも水牛はOKとのこと。。天と地の扱い。なんかモソモソ感で素朴な味でした。田畑で働いた末、お肉とは…可哀想。



モモランチ



ダルバート

次の日、ランチは「モモ」と呼ばれるネパール餃子。蒸した餃子をピリ辛チリソースで食べる。ピリ辛で旨い。ディナーは伝統理「ダルバート」。ダルは大豆でバートは米。なんとも言えない酸味と辛味のコラボが実は微妙…。

エベレスト遊覧…2回チャレンジ! 山の神は非情だった…また来いよ!

7月30日(土)朝5時起床。何といっても今日はヒマラヤ遊覧飛行だ! 一生に一度かもしれないので昨夜の食事時に慌てて申し込んだ! 二回のチャンスがある。今日だめなら明日。6時バスで空港へ。近代的空港とはほど遠い国内線空港。国際線の建物の隣に位置する。まあ、いい。二つのグループで30人くらい乗れる二機に分かれる。私は後発のグループ。先発グループが離陸。20~30分後、我々も飛行機に乗り込んでさあ出発! と思った瞬間、「今日はキャンセル!」と非情なスチュワーデス。「何でやねん」「WHY?」・エベレスト周辺の気象は変化が激しく、先発機からの連絡ですでに雲で覆われダメらしい…こればかりは…先発グループは不十分ながら見えたらしい。その後も何回か掛け合ってくれたが、やっぱり今日はキャンセル! 次の朝、再びチャレンジ。無理という航空会社を説得! 飛んだ! 曇った! ダメだった! 悲しいね…山の神は非情だった。「またネパールに来いよ!」というメッセージを受け取った。



一回目のフライト前の笑顔。乗り込んだその後、「キャンセル!」何それ、それはないぜベイビー!



次の朝、期待を込めて乗り込むが…



でも結局ダメでした…一面「雲の絨毯」でした。山の神「また来いよ」に! 最高!!



でも結局ダメでした…一面「雲の絨毯」でした。山の神「また来いよ」に! 最高!!

◎地震後のネパールの世界遺産はどうなったか

カトマンズ市内・ダルバール広場(マツラ朝最盛期の三王国時代の16~18世紀に造られた。)



ボダナート:世界最大級のストゥーパ(仏塔)。地震で先端に被害



旧王宮。ここも被害に逢い、上層階には上れなかった。



17世紀建立のヴィシュヌ神を祀る寺院。「つかえ棒」。効目あるのかな?



旧王宮もつかえ棒のお世話になっています。

カトマンズはかつて「ヒッピー」(既存の社会秩序、体制からドロップアウトする脱社会的な思想や行動に走り、あるいはそういうものを志向する者)と呼ばれる人たちの集まる町として知られていた。しかしここは、レンガ造りの古い家並みが残り、町の至るところにある寺院では信仰心厚い人たちが祈りを捧げている、そんな町が地震に襲われた!町は復旧はしているものの地震の爪痕が至る所に残っていた…。



カーラ・ハイバル:シヴァ神の化身。恐怖の神。ちょっとユーモラス。ここは無事だった。



跡形もなくなったネパール最古の建物。カスタマダブ寺院の跡。カトマンズの名前はここに由来。



クマリの館。女神クマリの化身として崇拝される少女が住む。ここでも「つかえ棒」!



地震の被害は路地や脇道のレンガ造りの住宅密集地に集中しているようだ。復旧はまだ遠い

31日バクタプル(15~18世紀の首都):カトマンズから東へ12キロ。カトマンズ盆地で3番目の都市。



左は五層の屋根を持つニヤタポラ寺院(18世紀始め建立) 右は1934年(地震)再建されたバイラヴナート寺院



ニヤラポラ寺院の隣のタチェパル広場。ダッタトラヤ寺院(1427年建立)とガルダ像



今はヴァッサラテヴィという塔は完全崩壊のまま

赤いレンガ造りの建物が印象的な街並み。映画『リトルブッダ』撮影地。



震災前のヴァッサラテヴィの塔

8月1日 パタン:別名ラトプル(美の都)と呼ばれ、かつてはマツラ王朝の3王国の首都だった。ここは仏教徒が多い。カトマンズと同じ旧王宮(ダルバール)の向かいには多くの寺院が立ち並ぶ。黄金の屋根を持つ仏教寺院ゴールデンテンブルがある。



ダルバール広場。正面がクリシュナ寺院突然のスコール!やっぱり雨季だった。



女性ばかり出入りしているヒन्दウ寺院。女性に効き目があるらしい。



12世紀建立だったが現在のは19世紀完成した仏教寺院。ゴールデンテンブル。特に被害はなかったようだ。

◎写真で見るネパールの市内・百景…

街中を歩くと自分が小学校時代当時の日本にタイムスリップする。懐かしい。メインストリートは自転車や三輪車、小型自動車などの庶民の乗り物であふれている。車両のマナーは東南アジアの国々や本場インド?と変わらない。ネパールも車社会。排気ガスやクラクション。狭い通りを走る抜けるバイク。信号はあるのだがランプはついていない。停電が多く、ドライバーも信号を守らないらしい。車道を渡るときはゆっくり渡れば怖くない。車やバイクがよけてくれる。これがアジア流横断術。



ネパールの“名物電線グチャグチャ巻き”。



メインストリート。小型車が多い。インド製が多い。



最近では富裕層を意識したスーパーが増えている。日本製品も充実している。



学校帰りの子供たち。お姉さんと一緒かな



50年前に日本中を走り回っていた三輪車。我々の年代は懐かしい「ミゼット」。



ヒマラヤ産そば粉を使った手打ちそば。ほっとした瞬間でした。ネパールではそばがきは食すとのこと。



カトマンズはバイクが庶民の足事も増えている



飼い主はいるらしい“ノラ牛”。やっぱりトルインド。

◎ヒマラヤ最高のビューポイント、ナガルコットへ 2100mからの絶景

カトマンズ周辺でヒマラヤの眺めがいいのがここナガルコット。標高約 2100mからの眺めは雲に邪魔はされたがサイコー！カトマンズのあの喧噪もなく、鳥や虫の鳴き声に耳を澄ませながら夕陽をながめやヒマラヤ連峰の眺望に心を奪われた。



ちよつとかすんだ夕陽でしたが心が洗われた



朝陽は残念ながら雲の中



小さく見えるのは山羊です



あつ蜜蜂、いやアブ？



静かでした…



一面に広がる雲海に感動！



雲海に何を思う…



クラブヒマラヤ・ナガルコット・リゾートに宿泊。眺望はサイコーでした

◎一度で二度おいしいソウル半日ツアー！

帰りの便の関係で、朝から夕方に変更。おかげで半日ソウル観光を楽しめた！ラッキー！！

